



# 旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校  
学校だより 7月号  
平成29年6月30日発行  
発行責任者：野田 豊

## ブラインドサッカー体験

副校長 相原 和子

オリンピック・パラリンピック教育の一環として、先日4年生とあさひ学級の児童がブラインドサッカー体験をしました。ブラインドサッカーとは、フットサルが原型となっていて、視覚を閉じた状態でプレーするものです。プレーする選手の多くは視覚障害のある方ですが、ゴールキーパーは健常者です。サッカーの技術だけでなく、視覚障害のある方と健常者が力を合わせてプレーする「音」「声」でコミュニケーションを図るスポーツです。

当日は、日本代表の川村 怜（かわむら りょう）選手をお迎えして学習しました。まず、子供たちはアイマスクを使って視覚障害のある方がどんな世界で暮らしているのかを体験しました。アイマスクをして走ったり、ボールを探したり蹴ったり…そばにいるガイドの友達の声に頼りに動くことを実際に行いました。アイマスクをしていると、声をかけてくれる友達だけが頼りだということも実感できました。また声をかける「ガイド」の役も大切であることがわかってきました。ボールが「右」にあるでは伝わりません。声のかけ方を工夫し、「右に〇歩」という表現から「小股で〇歩、右にかに歩きして」ととても具体的に声をかけることができました。

コミュニケーションが大切なこのブラインドサッカーの体験を通して、言葉で、声で伝えることを学びました。日頃少ない人数で生活することが多い子供たちは「あ・うん」の気持ちで過ごす場面があります。その中で、相手に伝えたつもり・伝えたはず、と思っていること、それで済ませていることも実際にあります。自分の思いや考えを言葉で表すことで、より自分の思いを伝えることにつながることを学んだという点でもブラインドサッカーを行ったことは貴重な経験となりました。

また4年生は、総合的な学習の時間に「共に生きる社会」をテーマに学習に取り組んでいます。今回のブラインドサッカーの体験は障害者理解の一つですが、学習のテーマに迫る貴重な体験となりました。

本校は、今年度オリンピック・パラリンピック教育のアワード校になりました。障害者理解を中心にオリンピック・パラリンピック教育を推進する学校として認定されました。今後もパラリンピアンをお招きして全児童に向けた講演や体験を計画しています。子供たちにとってスポーツを楽しむだけでなく、障害者理解を進めて2020年にむけたオリンピック・パラリンピック教育に取り組んで参ります。

